

大田区自立支援協議会 第1回相談支援部会要旨

文責：事務局

| | | | |
|---------------------|--|-------|-------|
| (1) 会議の名称 | 大田区自立支援協議会 第1回相談支援部会 | | |
| (2) 開催日時 | 令和5年6月7日(水) 9:30~11:30 | | |
| (3) 開催場所 | 障がい者総合サポートセンター5階 多目的室 | | |
| (4) 出席した 委員、事務局等 | 委員 <敬称略> | | |
| | 神作 彩子 | 椿山 通子 | 山本 利寛 |
| | 事務局：須藤 成政、酒井 史穂、山ノ内 怜奈、阿部 朝奈 | | |
| | 欠席者：古怒田 幸子、稗田 潤、宮澤 創 | | |
| (5) 内容・要旨 | <p>1 連絡・確認事項</p> <p>(1) 部会長選任の確認 相談支援部会部会長は神作氏と確認した。</p> <p>(2) 自己紹介</p> <ul style="list-style-type: none"> ●自立支援協議会への参加は初めて。現在の業務は相談支援ではないが、これまでの相談支援の経験から取り組めることがあると思ひ、相談支援部会を希望した。 ●2期目の参加となる。前期(令和3・4年度)に福祉と医療の連携について検討を進めていたところ、滝山病院の事件があった。連携不足、相談不足で起こった事件だと思う。滝山病院の事件再発に至らないように検討していきたい。 <p>(3) 第1回運営会議の報告</p> <p>令和5年度の運営体制は、名川会長、山根副会長、神作副会長(相談支援部会)、伊藤部会長(地域生活部会)、志村部会長(防災・あんしん部会)、事務局は障がい者総合サポートセンターと確認した。</p> <p>今年度から、傍聴席を設ける。2年任期において本会は3回実施予定。5月に本会委員の所属専門部会の調査を実施し、所属が決定した。6月に各専門部会を実施する。各部会の第1回は本会委員のみ出席。課題に応じた専門部会のみ委員(以下：のみ委員)の選出後、第2回を実施する。</p> <p>のみ委員は、最大20人をめどにテーマに応じて推薦いただく。他部会からも推薦があるかもしれない。また、本部会から他の部会に推薦も可能。ただし1人1部会への参加となる。課題によって、該当回限りの参加となるオブザーバーを呼ぶことも可能。のみ委員は原則全ての回に参加可能の方とする。推薦は該当者がいなければなしで可。推薦された人数が多い場合、調整となる。</p> <p>2 本日の検討事項</p> <p>(1) 昨年度までの経過の報告・共有</p> <p>相談支援部会は「個別支援会議から地域課題を抽出し、検討する」「大田区の相談支援体制を検証する」を継続して検討している。個別課題に見えても、他に同様の課題がある方がいるかもしれない。個別の課題を地域の課題として見方を変えて検討していく。相談支援専門員だけでなく、様々な立場からご意見をいただきたい。</p> | | |

令和3・4年度前半は、日ごろの地域課題を出しあった。様々な内容の中で、「医療と福祉の連携」に着目した。その後、「個別支援会議から地域課題を抽出」し、個別ケースを野中式事例検討のアセスメントを用いて検討した。事例を通し、地域課題から派生した課題に着目し、医療職と相談支援専門員の連携、支援チームへ巻き込む、福祉と医療の見立てのすり合わせ、相談支援専門員の認知度アップ等を後半で検討することとした。

後半はテーマを「医療と福祉の連携、間にある課題に着目する」とし、相談支援専門員に医療とのやりとりに関するアンケートを実施した。

介護と医療の連携から得られることがあると考え、在宅医療相談窓口の話聞いた。すでに医療との連携があるところに障がい分野も入れると良いと考え、現在は神作部会長が相談支援専門員として在宅医療連携推進会議に参加している。その後、薬剤師、訪問看護師の話も伺った。

医療との連携は引き続き検討していきたい。滝山病院の件から、精神科病院とのやり取りもできればよい。相談支援専門員の認知度を高めるという点も令和5・6年度に繋げたい。

ワーキンググループ（以下：WG）について。「相談支援体制の検証」として、第2層の課題に着目をしWGを設置した。大田区にある多くの相談場所を整理した。

（2）令和5年度の検討課題について

- 前期（令和3・4年度）の活動を続けたい。訪問看護師や薬剤師の話聞いたが、繋がりだけでなく、機能していきたい。相談支援専門員や相談ができる場所の認知度が少ないのはなぜか知りたい。
- これまでの相談支援部会活動を聞き、続きを見たいと思った。相談できる場所の認知度は低い。「相談支援専門員」という名前が分かりづらいか。行政に相談し、リストを渡されてここに連絡をと言われた方もいた。何を相談できる場所なのかイメージしやすいものがあれば良い。相談場所も周知したい。特に、まだ支援に繋がっていない地域の方に知っていただきたい。
- 大田区民全員に知っていただくのが理想。当事者以外の方も、何かあったときに聞いたことがあると思うだけでもよい。階層的に周知ができればよい。
- 何かするときの最初が「相談」になる。周知が必要なのは事実。専門性が細分化されているので、分野が変わると担当者も内容が分からなくなることも課題。マンパワーも重要なので、ICTを活用し、支援に時間が使えるようにしたい。医療と福祉の連携をやってきたが、その課題は医療以外にも共通する部分があると思う。テーマを継続し、掘り下げるか、違う角度で見えていくか検討が必要。
- 細かく決めすぎず、大きなテーマとして医療との連携は継続していく。他の分野の連携についても知りたい。
- 専門部会は様々な立場の委員が参加するため、大きなテーマがあれば多くの意見が出ると思う。1つの専門性だけでは足りない時代になってきた。知的障がい、身体障がいの会議体とも連携したい。ただし、最終的に集約される合議体は必要。地域の方が使えるツールも必要と考えているが、合議体からの発信が必要。滝山病院の

件についても、相談先が不明、連携ができていなかった。情報共有が手軽にできるツールがあればよかった。

- 医療の代表、福祉の代表、地域の代表、行政の代表など分散されている専門性をもった方が集合し、すべての課題が検討できる場にしたい。
- 合議体も、区長がトップだとよい。
- 福祉に頼るのは恥ずかしいという方がいる。チャットで相談など ICT の活用も必要。ただし、繋がりにたくないという方にも配慮しながら。相談したい人が「どこに相談してもだめだった」ということは避けたい。
- ワンストップの相談として、入口が一つあり、そこから振り分ける形もある。ただし、相談先が絞られることの繋がりにづらさもある。入口がどこでも、多くの繋がる場所があることが必要。受け入れ先が増えるとよい。
- 分野を問わず、相談を受けている人たちが会する場として、相談カフェができたらよい。
- 相談支援部会として、個別支援会議から地域課題を抽出し検討すること、大田区の相談支援体制の検証の二本柱はブレずに取り組むが、協議会として「相談支援とは何か」を検討していけたらよい。細分化されている会議体が会する機会があるとよい（合議体、カフェなど）。
- 課題の検討とともに周知の方法についても並行して考えていきたい。
- 自立支援協議会の認知度を高めたい。問題の集約も協議会の役割だが、どう形にしていくかの検討も必要。
- 福祉に無関心でいた方が、いざ必要になった際どこに相談したらいいか分からないことがある。機関同士でお互いを知る場が必要。
- 相談窓口が紹介されている冊子はあるが、相談例が載っているものが少ない。相談した結果どうなったということも知れるとよい。
- 相談支援専門員が関わると「誰？何ができるの？」という話から始まる。相談を受けることも大切だが、まずは知っていただくことが大切。
- 今期は地域課題を抽出、相談支援体制の検証を継続しつつ「連携相手、連携方法を深める。」「相談の入口として、受け止めの強化」を大きなテーマにしていきたい。

(3) 年間スケジュールの決定

次回は7月12日。のみ委員もそれまでに推薦いただく。第2回前半は基幹相談支援センターの報告、後半はこれからの部会について意見交換をしたい。

3 推薦者について

- 大田区内に事業所がないが、大田区で支援は行っている方の推薦は可能か確認。
- 福祉分野ではない方、医師等にも参加いただきたい。

次回日程 令和5年7月12日(水) 9時30分～12時00分

障がい者総合サポートセンター 5階 多目的室